

令和元年度 第3回川口市立グリーンセンター活性化基本計画検討委員会 議事録

日時 令和2年1月23日（木）10時00分～11時30分

場所 川口市立グリーンセンター大集会堂ホール

出席者 (委員) 土屋委員長
廣常委員 石田委員 田村(高)委員 會田委員
田村(真)委員 小林委員 本橋委員 小田委員
(事務局) 野崎部長 中村所長 森田副所長
二見係長 岩谷係長 峯岸係長
長島主査 浅倉主査 鈴木主査 島野主任 関根主事
(運営支援) 日本公園緑地協会

議事録

1 開会

2 委員長挨拶

3 議事

(1) 第2回活性化基本計画検討委員会の報告について

(2) パブリックコメントの実施について

(資料説明)

1 事業の目的について

グリーンセンターは開園から52年が経過し、施設の老朽化や園路の地盤沈下等の課題が表面化し、一方で入園者のニーズが多様化するなか、園全体を見直し、施設の更新を図ることによって、今後も市民に愛される施設となるよう、グリーンセンターの活性化に向けた基本計画の策定を目的としている。

2 計画地の現状と課題について

施設へのアクセスについては、電車・バスの公共交通機関を利用したアクセスは良くなく、車でのアクセスは良い。

施設の管理運営面については、園内の建物全般が老朽化し、安全面に不安があり、さらにバリアフリー化にも対応していない。また、給排水や電気などのインフラ設備も耐用年数を過ぎ、施設運営に著しく支障がでている。

利用実態については、入園者数は、年々減少傾向にあり、多くの入園者は、植物ではなく、レジャー・遊びを目的とした子育て世代となっている。園内では、わんぱく広場エリアの利用頻度が高くなっており、冬季のアイススケート場の入場者数は、ほぼ横ばい、夏季の流水プール場は減少傾向が続いている。

3 計画方針について

(1) 活性化に向けた基本コンセプトについて

グリーンセンターの新たな役割として、植物の魅力や楽しさとの「であい」を通じて、植物の知識を「まなび」、植物と「あそび」、直接「ふれあい」ながら、「いこい」

の場を創出する、植物の総合体験空間を作り出すものであり、6つのコンセプトを柱とし、実践する6つのアクションを掲げます。

1つ目は「だれもが何度も訪れたいくなるようなレクリエーションの場を提供する」

2つ目は「地域資源の情報発信と地域経済の活性化を図る」

3つ目は「植物にエンターテインメント要素を組み込み新たな植物の楽しみ方を提供する」

4つ目は「多様な自然体験を通じて植物や昆虫などの生物への理解を深める場を提供する」

5つ目は「災害時における避難場所として設備や施設、オープンスペースを整備する」

6つ目は「民間活力を最大限に活用して管理水準のレベルアップを図る」

(2) 主に対象とする世代について

新たなグリーンセンターのサービス、運営方法、イベント等を、効果的・効率的に計画するためには、ターゲットを明確化することが有効であると考えます。

この計画では、「子育て世代」を主な対象に設定し、子育て世代に魅力ある空間を提供することは、複数にまたがる世代にサービス提供することにつながり、多くの入園者を呼び込むことができる。子どものころ来ていた方々が親世代となり、また、親として子どもを連れてきていた方々がシニア世代になってからも慣れ親しんだ自然豊かな空間として再訪していただくサイクルを生み出せると考える。

4 整備及び管理運営方針について

(1) 利便性の向上について

現在の駐車場から入口までの距離が遠いという課題を解消するため、新たなゲートの設置を計画する。その結果、第2・第3駐車場からの利便性や安全性の向上を図る。

(2) 施設の再編による土地の有効活用について

主な方針として、老朽化が著しくバリアフリー化や耐震に問題のある施設、季節限定の施設は、廃止や機能集約による新たな複合的な施設を計画する。

(3) 防災機能の確保について

本市指定の広域避難場所として、芝生広場などをオープンスペースとして整備し、新たな建築物は、避難所の機能を併せ持つ施設として、機能強化を図る。

(4) 集客力の向上を見据えた新規施設の導入について

再整備後の象徴的な施設として、植物のふしぎやおもしろさを体験できる展示施設や、屋内イベントなどが開催可能でコンベンション機能も併せ持つ多目的ホールの設置を計画する。また、施設の機能移転や集約によってできた空地を利用した新たなアクティビティ施設を計画し、利用者の分散化と園内の回遊性を高める配置とする。

(5) 利用者サービスの向上について

新たにカフェスペースと室内遊具スペースを併せ持つ施設や、雨天時対策となる屋根付き広場、外部からも利用可能なレストランや売店、親子連れが気軽に利用できる

フードコート型の飲食施設を計画する。

また、貴重な植物を栽培展示している大温室の機能を継承した公開温室と休憩場所を併設したビジターセンターも計画する。

(6) 管理運営の在り方について

主な方針として、楽しく、ドキドキ・ワクワクするような魅力のあるイベントや快適で居心地が良い環境を継続して提供することで、集客力を高めリピーターの拡大を図り、併せて、地元企業との連携によって、グリーンセンターのポテンシャルを引き出し、周辺地域の活性化や魅力の発信によって、郷土愛の醸成に結び付く取り組みを目指す。また、民間事業者の積極的な活用によって管理運営の効率化を図り、サービスやパフォーマンスといったノウハウを活用することで、入園者により良いサービスを還元していくことを目指す。

5 施設の概要及び配置のイメージについて

植物を様々な角度から体験できる植物展示施設や、屋内イベントなどが開催可能な多目的なホールを配置し、この2つの建物は、新たなグリーンセンターのランドマークとする。また、アクティビティやレクリエーション施設、飲食の充実を図るためのレストハウス等を、適所に配置し、利用者の分散化と園内の回遊性を高める配置として計画する。

【質疑応答】

(委 員) 有料公園なので、壁面などの境がないといけないと思うが、歩道として敷地を1.5mほどセットバックするだけで、道路の横にランニングコースが出来る。柵の中と外の境が分かりづらくなり、公園が市民にとって身近になって、お金払わなくても楽しめる場所と、お金払ったら更に楽しいことが出来る場所と、2つの楽しみ方ができるような気がする。

(事務局) 柵のセットバック、大変貴重な意見であり、周遊コースで1周回るランニングコースなどはいいと思うが、形状的に難しい箇所がある。今後整備していく中で、用水側の敷地は、セットバックして、黒い柵だと違和感、圧迫感があるということで、少し低めの明るい色の柵で遊歩道を整備していきたいと考えている。

(委 員) 地域振興という点で、グリーンセンターが地域に及ぼす影響について、川口は住みやすい街にも選ばれているので、利便性の高い南北線の広告などを活かして宣伝していく必要があると感じた。

(事務局) グリーンセンターが拠点となり、周辺により良い効果がもたらせるように、地域や商店の方々と連携しながらやっていきたいと思っている。

(委 員) 流水プールと大集会堂の廃止に向けて検討することについては、プール利用者の大幅な減少や老朽化を考慮すると、廃止は仕方ないのかと思う。大集会堂については、老朽化しバリアフリー化されていないということで、

今回のグリーンセンター活性化の総合的な判断では再構築ということは、大きな見直しをする中で、いたしかたないと感じる。

(事務局) 流水プール場や大集会堂などの耐震性が低く、バリアフリー対策が出来ていない施設については、解体し、機能を集約して新たな施設を建設していきたい。プール事業については、廃止の方向で考えている。大集会堂も今後の利活用の調査を行ったうえで、判断していきたいと思っている。

(委員) スマートフォンが子どもたちの生活の中に浸透してきている。スマートフォンを活用して植物を調べたりなど出来るとより効果的なのかと感じた。若い世代については、インスタ映えのスポットがあると、それが友達に広がり、集客につながると思う。

(事務局) 体験型植物展示施設など園内で検討しているものがある。例えば、スマホのアプリを活用して、写真を撮れば自分だけの図鑑を作れるというようなことも活用する方法として考えている。意見をいただき、そのような活用方法も今の時代では有効であると感じた。時代の先を見越したような植物の楽しみ方の検討も考えていきたいと思っている。イベント等の誘致で、集客や収益の向上を考えることも、併せて検討していきたい。

(委員) 今までのグリーンセンターを愛している方々、新しいニーズを求めている方々など、いろいろな視点からの意見があり、全てを取り入れることは不可能かと思うが、うまく調整して、より楽しめる施設になることを願っている。

(事務局) 市民の方々に愛され続ける公園として運営してきた。これからも愛され続ける公園を目指し、新たな計画を策定したいと思っている。今までのものを残したり、新たなものを作るなど、今後検討を重ねながら、益々愛される場所として整備したい。

(委員) 活性化に向けた基本コンセプトは新たな楽しみ方を提供する植物の総合体験空間ということで、これまでの経緯を踏まえつつ、植物をベースにして、体験できる、楽しめる空間というコンセプトであると理解している。主に対象とする世代が、子育て世代ということだが、シニア世代になってからも安心して楽しめる自然豊かな空間として、再訪できるような場所であればと思っている。大集会堂と流水プール場については、施設の老朽化、バリアフリーの未整備等を踏まえて、見直しを行い、より良い施設にして欲しいと思う。

(事務局) 植物園の魅力をいかに市民の方々、子どもたちに発信できるかということが重要であると感じている。実際には、家族連れの方が多くなっているので、来園者のニーズを踏まえながら、多世代が楽しんで頂けるような施設になるように今後、再整備を含めて進めていきたいと思っている。大集会堂については、利活用の調査を行ったうえで判断し、流水プール場に

については、廃止の方向として考えている。

(委 員) 子育て世代を対象とした施設にしていこうということになると、例えば、手っ取り早くできるものはいちご狩りのような体験農園である。不思議と人間は赤いものには目が惹かれる。その心理的なところに付け込むのはいけないのかもしれないが、子育て世代ということを見ると、親子で楽しめる体験農園が1つの手法かなと思う。

(事務局) 体験農園は面白いと思った。参考にさせていただきたいと思う。計画の中でも、公開温室については、カフェやお店のようなものを設けて、温室で育てられる果物を食せるというアイデアもある。そこでもぎ取ったものが、カフェで食べられ、それが市内で供給できるものであれば、市内の農業関係者の方に補っていただいて、ぜひ公開温室を含めて活用していただきたいというアイデアもある。

(委 員) 現状と課題では管理者側の目線が出ていて、利用者側の目線の課題や問題が少し足りないように思える。もちろん、これを作るにあたっては、市民の方のニーズに対しての話も出ているので、十分調査もしているとは思いますが、昔ここを利用した人に話を聞いたところ、わんぱく広場に良く行くが正面からではなく、医療センターに駐車して東門から入園すると言っていた。動線を考えたとき、利用者は管理者側が意図したことと違う行動をとるので、そこを酌んであげると、お金のかからない施設作りが出来ると思う。

(事務局) 利用者の方の意見は、施設を運営する上、大事なことであるので、今後多くの利用者の聞いていかなければならないと思っている。

(委 員) 暑さ対策として、夜間利用というのは大事な点である。既にグリーンセンターのイベントとして夜間の利用が行われていると思うが、この夜間利用というのを念頭において、今後の整備を進めていくのであれば、照明設備が十分でないと良くないと思うので、事前にある程度想定して進めてほしい。

(事務局) 夜間利用については、7月にホテル観賞の集いをやっているが、来年度、経済部で夜間を含めたイベントを計画しており、試みの一つとしてプロジェクトマッピングなども企画している。その結果等を検証し、今後、どのような形で取り入れていくか検討していきたい。

【意見交換】

(委 員) 具体的な利便性の向上とか、施設の話があったが、地域や社会との関係性をもうすこし身近にするような施設の計画として、公園だけで全部を受け持つ必要はないと思う。例えば、新井宿駅から徒歩10分であるところが不便となっているが、その間に楽しいものがずっとつながっている環境

であったり、利便施設があれば、帰りに食事ができたり、ガーデニングショップのような緑の提案ができればいいと思うが、それを誘発していくことも機能に入れたり、もしくは地域と話し合いをしながら地権者の方にそういう事業を促進して、場合によってはここで生まれた事業やビジネスをしたいというテナントを誘導してあげたりということも、商業振興につながると思う。

(委 員) 基本計画の次の段階になるのかもしれないが、経済の活性化という観点からのアクセス、商業施設との関連性、インフラ整備、園内の販売方法などの検討も今後必要になってくると思う。

(委 員) 毎年5月に1年生と6年生で仲良し遠足として徒歩で来園し、わんぱく広場で遊ばせていただいていると、幼稚園や保育園の子どもたちと交じって遊んでいる姿を目撃する。1年生や6年生がおにごっこしたりすると、ぶつからないかいつも心配していた。新たにアスレチックを計画されていると聞いて、すごくいいと思う。小さな子と、大きな子の遊ぶ場所が分かれると、危険性も少し減ると思う。

4 閉会